

花文化の現代的地平

第1部 トーク・セッション

本格的な国際化、多文化共生の時代を迎えた日本社会。その中で、日本の伝統文化が世界的に注目されています。日本の伝統文化は、絶えずその時代における「現代」と向き合い、新たな文化の地平を切り拓いてきたからこそ、現代まで生き残ってきました。伝統文化教育を基幹とする本学の学長が、「いけばな」という伝統文化のリーダー、そして現代社会を鋭く分析する論客という、お二人のゲストをお迎えして、日本に息づく伝統文化の現代的意義について縦横に語り合います。

[プロフィール]

いけのぼな みか
池坊 美佳

華道家、華道家元池坊青年部代表、本学理事。華道家元45世池坊専永の次女として生まれる。国内外でいけばなの振興に尽力する傍ら、京都市が運営する伝統文化・産業の発信拠点「京都館」館長やKBS京都の経済報道番組のメインキャスターを務める等、華道だけにとどまらない多様なフィールドで活躍中。2010年に第46回日本キワニス大賞を受賞。



まつい こうじ
松井 孝治

慶應義塾大学総合政策学部教授、本学理事。老舗旅館の次男として京都市に生まれ、東京大学を卒業後は通商産業省(当時)に入省。羽田・村山・橋本の各内閣を支えたが、2000年に退官。2001年に参議院議員選挙に出馬し当選。議員を2期務め、鳩山・野田内閣では内閣官房副長官等の中心的な役割を担う。2012年に政界を引退後は大学教授の傍ら、政界の論客として各メディアで活躍中。



[コーディネーター]
たかさぎ ともしこ
高杉 巴彦



立命館アジア太平洋大学副学長、立命館国際平和ミュージアム館長等を歴任し、2018年に池坊短期大学学長に就任。専門は日本近代史、教育行政学。

第2部 パフォーマンス・セッション(いけばな×ジャズ)

「四方生け」とは、江戸時代の池坊花伝書の中に遺されている花形のひとつです。正面の一方から鑑賞することを旨とする現代の基本的な生け方に対し、四方向から鑑賞できる生け方ですが、400年の長きに渡って実際に生けられることはありませんでした。このたび、本学華道文化研究所が、花伝書研究によりこの花形を再現すると同時に、完成した作品だけでなく、現代音楽の歴史を彩る「ジャズ」とのセッションを通して、花と音楽が創り出す新たな空間を楽しんでいただきます。

[プロフィール]

しまづ のりよし
島津 範好

池坊短期大学文化芸術学科准教授、池坊華道会特別嘱託講師。華道家としての道を究めながら、本学専任教員として、また他の教育機関において、いけばな教育の発展に尽力している。今回は、池坊で幻の花形とされる「四方生け」に、しかもジャズとのセッションという初めての試みにチャレンジする。いったいどんな作品が完成するのかは、当日のお楽しみ！



ひかさ とちゆき
日笠 智之

サクソ奏者・サウンドクリエイター・Webプロデューサー。中学からサクソを始め、大学在学中にプロとして初ステージを踏む。その後ジャズプレーヤーとして活動する傍ら、デザイン系のプロジェクトも展開。現在は、多彩な経験を活かし、ミュージシャン兼クリエイターとして活躍中。今回は、関西に拠点を置く一流のミュージシャンと一緒に「いけばな」とコラボレートします。

